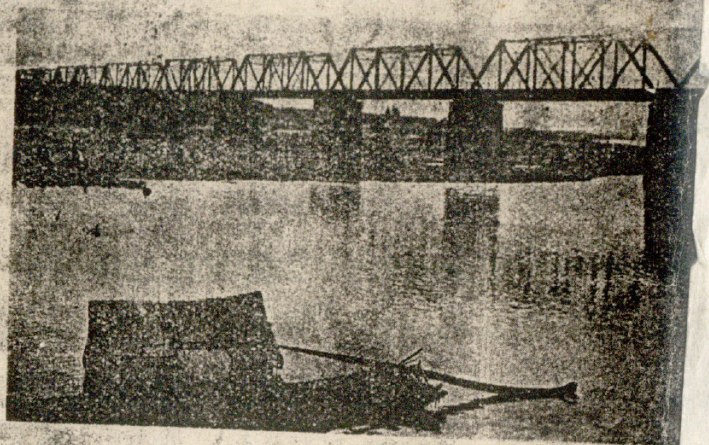


本溪湖工商要覽

康德六年版



本溪湖太子河鐵橋

本溪湖工商公會

凡 例

一、本書は本溪湖に於ける各種商工業並に一般事情の概要を記述し、以て實業考察團其他關係各方面の參考に資せむがために編纂した。

一、本書は管外と雖も必要と認むる事項は之を採録した。

一、本書は治外法權撤廢並に滿鐵附屬地行政權以前よりの各種商工業の狀況を詳らかにするため、
康徳三年度以降の實蹟を勉めて收録した。

一、本書は卷末に本會々員名錄を附し、各種取引の便に資することにした。

一、本書の編纂に方り、種々の便宜を供與せられた各位に對し深甚の謝意を表す。

康徳六年五月

本溪湖小唄

一、ヨイ／＼、神社お山に春風吹けば、ヨヤサ

紅いあんずの花が咲くヨ

それもそやないか日露役

血潮さゝげた跡ちやもの

サツテモソーカイナ、エヤサ

二、ヨイ／＼、上りや三日浦下れば崔家、ヨヤサ

間の中の島雨が降るヨ

雨ちやござらぬ臥龍浦

鶴の羽ばたく浪しぶき

サツテモソーカイナ、エヤサ

三、ヨイ／＼、並ぶ煙突渦巻く煙り、ヨヤサ

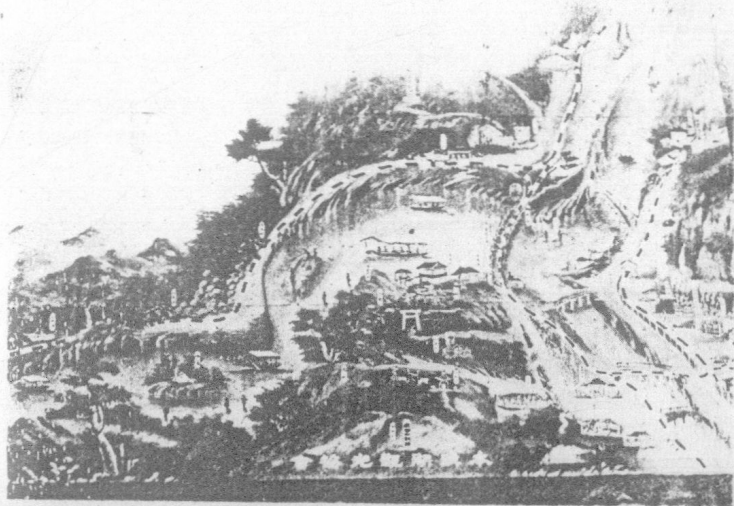
燃える熔爐の火の都ヨ

伸びる鉄後の日本をば

護る工業の本溪湖

サツテモソーカイナ、エヤサ

本溪湖内景圖



本溪湖音頭

一、嫌なところと思ふて來たが

夜が戀しい灯の都、エ、灯の都

二、一度ぬれたい太子の水に

主と二人の館舟、エ、館舟

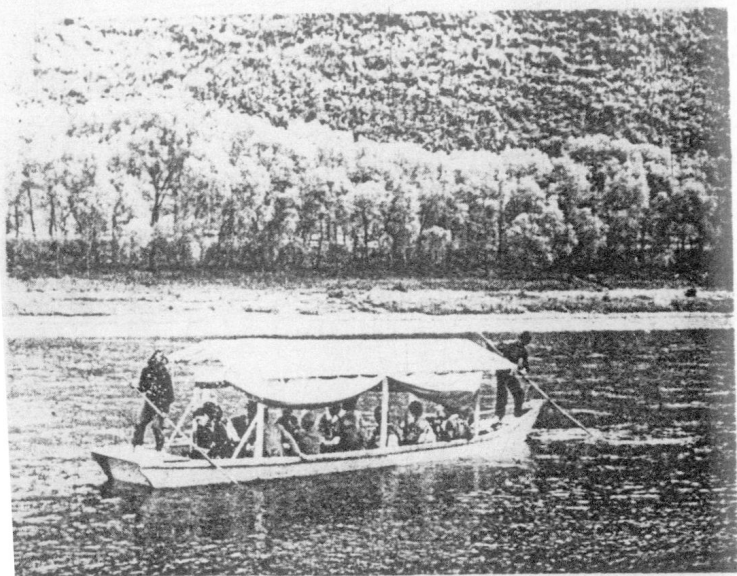
三、館舟なら太子の河よ

月の出るまで歸しやせぬ、エ、歸し

やせぬ

四、松の小蔭も戦さの跡よ

逢瀬樂しむ人もある、エ、人もある



本溪湖商工要覽

目次

概説

第一章

沿革

一、本溪湖の歴史

二、鐵、炭、密各業の推移

三、市街發展の經路

第二章

地誌

一、位置、地勢

二、面積

三、人口

イ、康德五年度末戸數、人口

第三章

官公衙、諸機關、諸團體

口、康德五年度末職業別人口 一六

四、氣候 一七

一、官公衙 一八

二、教育 神社、寺廟其他 一九

イ、學校及び圖書館 一九

ロ、神社 一九

ハ、寺廟、宗教 一九

三、~~三~~ 碑 二〇

三、商工機關、會社、組合其他 二〇

イ、商工機關 二〇

ロ、會社 二〇

ハ、同業組合、消費組合 二一

ニ、金融機關 二二

ホ、醫療、衛生機關……………一二二

ヘ、言論機關……………一二二

ト、其他主要機關及團體……………一二一

第四章 通信、交通、運輸……………一二三

一、通信……………一二三

A、郵政……………一二三

イ、小包……………一二四

ロ、爲替……………一二四

ハ、貯金……………一二五

ニ、振替……………一二五

B、電信、電話、ラヂオ……………一二六

イ、電話……………一二六

ロ、電報……………一二六

ハ、ラヂオ……………一二七

a、木材集散狀況.....三五

b、糧穀集散狀況.....三六

c、牛心台炭移入概況.....三七

d、本年度搬入豫想量.....三七

e、奧地向物資搬出概況.....三八

口、水 運.....三九

第五章 金 融.....三九

一、爲 替.....四〇

二、預 金.....四一

三、貸 出.....四一

第六章 商 業.....四一

一、業種別營業戶數.....四二

二、日側主要商店賣上高.....四四

第七章

工

業

一、製鐵並に鐵工業……………

五〇

イ、株式會社本溪湖煤鐵公司……………

五〇

ロ、本溪湖特殊鋼株式會社……………

五一

ハ、宮原機械製作所……………

五一

二、洋灰、白雲石、石灰、窯業……………

五一

イ、本溪湖洋灰株式會社……………

五一

三、滿側主要商店賣上高……………

四五

イ、舊附屬地十一店ニツキ調査セルモノ……………

四五

ロ、管内六十六店ニツキ調査セルモノ……………

四六

四、日側料理店揚高……………

四七

五、滿側料理店揚高……………

四八

六、旅館宿泊人員數……………

四八

七、特產物取引狀況……………

四九

第八章 鑛

業

ロ、本溪湖ドロマイト工業株式會社	五三
ハ、本溪湖石灰聯合會	五四
ニ、本溪湖鑛業株式會社	五四
ホ、日滿鑛業合資會社	五五
ヘ、土建界	五五
ト、其他工業	五五
A、金屬鑛物	五六
一、鐵 鑛	五六
二、硫化鐵鑛	五七
三、銅 鑛	五八
四、鉛 鑛	五八
五、金 鑛	五九
六、砂 金	五九

七、銀 鑛

六〇

B、非金屬礦物

六〇

一、石 炭

六〇

二、石灰石

六二

三、粘 土

六二

四、苦灰石

六三

五、青 石

六三

六、滑 石

六三

七、硯 石

六三

八、石 棉

六三

九、雲 母

六三

一〇、陶 土

六四

一一、石版材

六四

一二、石 材

六四

第九章 農牧林業

六四

一、農業

六四

二、牧畜

六五

三、林業

六五

第十章 觀光

六六

一、鐵都風光

六六

イ、本溪湖神社

六六

ロ、神社山公園

六七

ハ、誠忠山公園

六八

ニ、鐘乳洞

六八

ホ、穎親王墳

六九

ヘ、狗兒湯溫泉

六九

ト、龍洞

六九

二、史 蹟

イ、日露戰跡

ロ、高勾麗城趾

ハ、威寧營城

ニ、清河城

ホ、連山關

ヘ、其他の城堡

三、遊覽案内

イ、太子河舟遊

a、船 賃

b、汽車 賃

c、車馬 賃

d、辨 當

e、川魚料理

七〇

七〇

七二

七二

七三

七四

七五

七五

七五

七八

七九

七九

八〇

八〇

f、室料.....八〇

ロ、ハイキング.....八一

a、本溪湖.....八一

b、宮原.....八二

ハ、ゴルフ.....八四

第十一章 附近都市.....八五

一、橋頭.....八五

二、連山關.....八五

第十二章 背後地概況.....八六

商工要覽目次終リ

本溪湖商工名錄

一、日本人側.....八七

二、 滿洲人側

一三

商工名録目次終リ

一〇七

本溪湖商工要覽

概 説

産業國策の主役を躍つて華々しく登場した本溪湖は、今や時代の寵兒として晝夜間斷なく隆々たる躍進譜を奏でゝゐる。

無限の鑛産と豊富なる燃料とは相伴つてその驥足を伸べ、諸工業の勃興を誘引し、また各種企業の胚胎に拍車をかけ、躍進又躍進、今や人口七萬余、政治的にまた經濟的に名實共に全滿に於ける最大主要都市として君臨し、新興大滿洲帝國の進運に相和して、日進月歩の實を擧げ、愈々グレート本溪湖の體制を具備するに至つた。

而して今また日支事變勃發し、その戦局の擴大するに伴ひ、日滿兩帝國の政治、經濟はその全分野に亘つて、準戦時體制から純戦時體制へと移り、上下官民擧げて統制經濟を強行しつゝある秋、滿洲重工業の原動力たる本溪湖産の鑛物を中心として幾多の諸工業が發展し、これを基調とする背後地資源の開発と相俟つて商業も亦大いに發達し、以て非常時産業經濟の充實と國民生活の充足に